

---

# そのくちびるに

まりす

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そのくちびるに

### 【Nコード】

N0418V

### 【作者名】

まりす

### 【あらすじ】

通勤電車っていつも同じ風景。

でも、今日はいつもと違う時間に乗ることになったんだよね。

通勤や通学って、通る道や交通手段がいつも同じになっちゃうよね。別にそれがイヤってわけじゃなくて、うーん、なんていうのかなあ…刺激がないっていうか、毎日代わり映えのしない風景の連続っていうか。

てっとり早く言えば、刺激が欲しいのかもしれない。

でも、朝はバタバタして余裕ないし、帰りは疲れ果てて元気がないん？通勤途中で何の刺激がほしいんだろう、わたし？

いくら会社で出会いがないからって、あの満員電車の中で、刺激があるわけないか…。

1〜2本、乗る電車を早くすれば少しでも空いてるのはわかってるんだけど、身に付いちやった習慣はそう簡単に変えられないんだよね。

…とか何とか言ったら、いつもより早い電車に乗ることになったんだよね。

言霊？

なんて言うのは冗談だけど、昨日のうちに片づけなくちゃいけない仕事をついというか、うつかりというか、まあ会社に置いて来ちゃったわけだ、これが。

しかも、気付いたのが夜中なんて、泣くに泣けない…。

ともかくいつもより早めに起きて、いつもより早い電車に乗ることになったわけ。

時折揺れる電車の震動が睡眠不足の体に心地よく響く。

この揺れが眠りを誘うのよ、きつと。

いつもより早い時間帯のせいで、空いていた車内。珍しく座席に座ったもんだから、睡魔に引き込まれそうになるのを止められそうに

なかった。

で、ついカックンと頭が落ちた衝撃に、ハッと目が覚める。

ああ、このまま帰ってベッドに丸くなりたいなあ。

そんなことを考えていたら、視界の端に高校生の男の子が映った。

ドアにもたれて、さっきまでのわたしのようにつつらうつらと舟を漕いでいる。

その様子がなんだか可愛くて、つい笑っちゃった。

すると彼のまぶたがパツと開き、目が合う。

目が合ったんだけど、わたしの目を奪ったのはなぜか唇。

薄くもなく、厚くもなく、触れたらひんやりしていそうな、その唇に。

そうしてどれくらい見ていたのか…短かったのか、長かったのか…それもわからない。

ガタンと大きく電車が揺れたことで、彼から、正確に言えば、彼の唇から目が離れた。

いけない、いけない。何してるんだか…。でも…妙に気になる。

ふと視線を元に戻せば彼とまた目が合ってしまった。

さっきまでは唇ばかりに気を取られてたから気付かなかったけど、結構可愛い顔してる。

目の保養だわ。会社に着けば、あんな涼しげな顔してる人いないもの。

でもあんまり見てるのも失礼よねえ…。

そんなことを考えてたら、彼が首を傾げた。

その拍子にまた唇に目が行ってしまう。

キスしたい…。

唐突にそう思った。

あのひんやりしてそうな唇にキスしたら、きつと…。

「間もなく……駅に到着します」電車内に流れるアナウンス。  
あ、降りなきゃ。

降りる支度を始めたから、自然に視線は外れた。  
けど…キスしたいだなんて、何考えてんだろう。欲求不満なのかしら。

確かに彼氏いないけど、相手は高校生だよ。幾つ違うと思ってるの？  
降りる間際振り返るとまた彼と目が合ってしまった。

でもきつともう会うことはないはず。だって今日はたまたまこの時間の電車に乗っただけなもの。

あ、そうだった。仕事。

やだ。いつの間にか仕事のことを頭の片隅に追いやってた。  
慌てて電車から降りると会社へ向かう。

なんとなく後ろ髪引かれるのはきつと気のせい。

（後書き）

なろう様での初のオリジナル（？）です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0418v/>

---

そのくちびるに

2011年7月23日13時14分発行